Vol.165　農工商と市民でつくるストアーPart2（平成21年8月10日）

「私は駅弁を買うといつもふたの裏についた飯粒を一つずつ箸でつまんで食べる癖があります。それは、私の生れた家が極めて貧しかったからであります。秋になると電灯料が払えなく、家の戸口の切られた電線に赤とんぼが止まっていた風景を今でも覚えております。」

作家水上勉が画いた越前、能登は貧しい国だと言う印象が強く残っております。先日あるデータを調べていましたら、その石川県は1世帯当たりの1カ月の平均収入58万円で、千葉県の50万円より多く、一人当たりの年間販売額も千葉県の凡そ80万円に対して111万円と全国平均よりはるかに高いのです。当然失業率も千葉県は凡そ6%に対して石川県は4.2%と低い事に驚かされました。幸い機会がありましたので和倉温泉に一泊して石川県下を一回りしてきました。

先ず気がついた事はこの地方は3世代同居世帯が多いことでした。家事、育児は祖父母がされるので家族全員が安心して外で働くことができるから世代収入が多いだけでなく、家計コストは核家族と比べると50%と言われますから、この石川県は今、極めて豊かな家庭が多く持ち家も千葉県の60%に対してこちらは80%ですから何よりの証明です。

一番気になった事は、何故一人あたりの販売額が非常に高いのか？です。石川県の観光入込人口は凡そ2千万人、千葉県は1億4千万人であります。

石川県は国の指定を受けている伝統工芸品は輪島塗、九谷焼など京都につぐ多い地方であります。

輪島の朝市中心街は、工芸品が多く見られますが、朝市の路上には農家の高齢な老婆たちが手作りの藁細工や山菜類を並べ、川漁師は川から拾って来た自然石や流木を売って居りました。豊富な海産物、山菜の漬物、この土地の資源はすべて生活、観光資源として大切に生かして観光客に販売する見事なたくましさであります。

私はもう９０歳と思われるおばあさんに筵（むしろ）の上から紅白の鮮やかな草履と細い藁細工を何点か買いました。その折、老婆が私に向けた感謝の表情に私と同行の人達が一斉に買い求めてくれました。商品とは品質だけでなく、売る人の表情によって「価値・品格」が生まれるのかと思いました。

この地方の人達の買物は「地元ですべて買う」と言う気風があるようでうらやましい限りです。自ら地元循環経済となって一人あたりの販売額を多くしていると思われます。

これから南房総への観光人口は益々増大して幹線道路を大渋滞させるだけでは嫌われます。どの様に田舎道を迂回、回遊させ田舎の風物に触れられる案内役や斡旋の役目もされてバーチャル人口を増やして行くことも大切な役目であります。

今大型店はやたらに市民生活の為と安売りの過当競争をしておりますが、実際は大型店の覇権争いであり、戦後安売り戦争で勝ち残ったものはおりません。安売り商品のほとんどは、東南アジアで生産されますので結果的には国内の農漁業、メーカー等の産業を空洞させ多くの失業者を生む原因となっています。

これからの地方商業は、消費者も参加する「市民ストアー」が必要と思い、この一文となりました。